

## 「教育実習体験レポート」

[公立中学校 英語]

教育実習を終えて、学んだことが3つある。まず1つは指示の出し方一つで授業のわかりやすさが変わってくるということだ。口頭だけではなく、時にパワーポイントや板書を用いながら指示を少し分かりやすくするだけで、生徒の理解度がぐんと上がった。特に発展的な内容をする際はわかりやすい指示を出し、出来たら視覚情報も併せて提供する必要があると思った。

2つ目に、授業外でも生徒とコミュニケーションを取るべきだと思った。授業で生徒を指名して質問する際は、その子が発表することを好むのか嫌うのか、さらには得意科目・考え方などを知っていると、その子の特性・性格に合わせて質問個所を考えたり、質問の仕方を工夫できたりする。生徒にとっても良く知る先生からの質問には安心して答えられるだろうから、授業を円滑に進めるうえでも日頃のコミュニケーションは多いに越したことはないと思う。

最後に、特に教科に関することだが、今の英語は文法重視ではなく会話重視で教えるということだ。今回使用した SUNSHINE という教科書では、文法事項が章の最後に登場する。まずは、新しい言い回し（文法事項）のリズムを感じ取り、次にフレーズが登場するリスニング、スピーキングが出来るようになり、それから本文に入ってリーディング、最後にライティングへと移る。読み書きのワークの間も、細かく意見交換できる機会が設けられる。新しい分野に入ればまず文法からたたき込んできた私は、この教え方に戸惑った。しかし、聞く、話すが全く出来なかった自分の中高生時代を振り返ると、この指導法はとても画期的だと感じた。教え方の工夫次第で生徒の4技能を満遍なく伸ばせるとと思うと、教え甲斐のある教科だと思った。

実習を通して、将来教員になったらこんな授業をしたいという目標ができた。それは、「誰もが分かりやすく、楽しんで受けられる授業」だ。この授業を実現するためには、先に述べたように分かりやすい指示をすること、日頃から生徒と話すこと、英語という言語の教え方を追求することはもちろん必要である。これに加えて、さらに4点必要だと考えている。1つ目はゴールを明確にすること。2つ目は発展的な内容をする際は英語が苦手な子も付いてこられるようなサポート（補助教材など）を用意すること。3つ目は生徒同士が会話する時間が長い授業をすること。4つ目は支援の子も楽しく参加できるような授業を用意すること。すべて実習を通して実感したことだが、特に4点目に関しては実習校で実習したからこそ得られた考えだと思う。障がいのある子もない子も共に同じ教室で学ぶ中学校では、常にユニバーサルデザインを考え授業を展開する必要がある。将来的にはどこの地域に赴任したとしてもこの考えは大切にするべきだと思う。英語科は生徒同士の会話を増やしやすい科目だろうし、障がいのある子とない子の架け橋になるような活動も考えられたらと思

った。このようにいろいろな発見があった実習生活は、私の人生においてとても価値のある経験になった。